

V61b **2009年皆既日食で用いた船上観測のための可視光赤外線観測装置**

伊藤洋一、向井正、寺居剛、高橋隼(神戸大学)、奥田治之(JAXA)、大朝由美子(埼玉大学)、猿楽祐樹(東京大学)、かごしま丸 2009 皆既日食航海隊

我々は、鹿児島大学水産学部の附属練習船「かごしま丸」で航海を行い、2009年7月22日に起こった今世紀最大級の皆既日食を観測した。洋上で観測することは、皆既日食の継続時間の長い地点に行くことができることに加え、天候の良い場所に移動できるというメリットもある。我々は、近赤外線と可視光の撮像観測によって、太陽のダストリング(F コロナ) 及び太陽近傍の惑星間塵雲の検出を試みた。

今回の皆既日食の観測は、船上で行ったため、観測中は常に揺れが生じていた。そこで我々は、ジンバル除振装置の開発をはじめとして、様々な工夫を行い、観測に望んだ。

あいにく皆既直前に雲が発生し、皆既日食の観測はできなかったが、開発した装置の有用性は、皆既前後の部分日食時の観測などで確かめることができた。地球表面は約7割が海に覆われているので、洋上観測は将来の同様の食観測に対して、大きな可能性を秘めている。本講演では、開発した装置の特性などについて報告する。